

## 取手アートプロジェクト 2008

# 「取手井野団地—電気・ガス・水道・アート完備」 只今レジデンス中！会期は11月1日から

これまでまちのさまざまな場所で展開してきた取手アートプロジェクト（TAP）は、今年で10年目を迎えます。今回は昭和44年に取手市内最大の日本住宅公団（現在のUR都市機構）の賃貸住宅として建てられた取手井野団地をメイン会場におこないます。取手井野団地は、現在2100世帯以上、約6000人の人びとの生活の場になっています。古くなった壁は塗り替えられ、新しく入ってくる人もいれば移っていく人もいます。この団地に23組のアーティストが暮らし、それぞれの視点で団地の人、空間、関係に視点をあて生活の中にアートを忍び込ませます。11月の9日間これまでとはちょっと違う取手井野団地が現れます。

会期 2008年11月1日（土）～16日（日）の金・土・日・祝

会場 茨城県取手市内各所（取手井野団、麒麟ビアパーク取手ほか）

時間＝10:00-18:00

JR常磐線で「上野駅」より40分、またはつくばエクスプレス「守谷駅」にて関東鉄道常総線に乗り換え「取手駅」下車。「取手駅」東口、関東鉄道バス3番乗り場から井野団地循環で約7分。「井野団地」下車すぐ。

常磐自動車道谷和原インターより車で35分（取手井野団地内に駐車場はありません。近隣の駐車場をご利用下さい。）

※「取手駅」西口、東口にある国民文化祭総合インフォメーションセンターでも案内しております。

ゲスト・プロデューサー みかんぐみ（建築家ユニット）

ゲスト・アーティスト みかんぐみ（建築家ユニット）／齋藤芽生（画家）

生意気（クリエイティヴユニット）／Port B（演劇ユニット）

国際交流プログラムアーティスト 6組

公募選出アーティスト 13組

主催＝取手アートプロジェクト実行委員会

（取手市、東京芸術大学、アート取手、取手市教育委員会、取手市商工会、財団法人取手市文化事業団、茨城みなみ農業協同組合、取手美術作家展）

第23回国民文化祭・いばらき2008「現代アートフェスティバル in 取手」（文化庁、茨城県、茨城県教育委員会、取手市、取手市教育委員会、第23回国民文化祭茨城県実行委員会、第23回国民文化祭取手市実行委員会）

茨城県南芸術の門創造会議

（茨城県、取手市、守谷市、取手アートプロジェクト実行委員会、アークプロジェクト実行委員会）

助成＝財団法人地域創造

協賛＝麒麟ホールディングス株式会社／東日本ガス株式会社／株式会社安井建築設計事務所／株式会社新六本店／取手ロータリークラブ／有限会社長谷商事／取手市建設業協会

協力＝取手井野団地自治会／独立行政法人都市再生機構／財団法人茨城住宅管理協会／関東鉄道株式会社／Seoksu Art Project／日本精線株式会社／東日本旅客鉄道株式会社

認定＝社団法人企業メセナ協議会

平成20年度文化庁「文化芸術による創造のまち」支援事業



本件に関するお問い合わせ

取手アートプロジェクト実施本部

〒302-0024 茨城県取手市新町 2-3-16

TEL/FAX：0297-72-0177（OPEN：火・金 13:00～17:00）

E-mail：tap-info@ima.fa.geidai.ac.jp

Web：http://www.toride-ap.gr.jp

担当：中山亜美（080-5544-6597） 柴田欽子（090-5568-4585）

## 10月1日から23組のアーティストが井野団地住民に！ 日々、ワークショップや交流会を開催中！



10月1日から始まったレジデンスをTAP2008では毎日レポートしています。

<http://tap2008.exblog.jp/>

また、各アーティストもレジデンスの様子をアップしています。

日本大学佐藤慎也研究室 +1人/日 in TAP2008

<http://tap2008sss.cocolog-nifty.com/blog/>

奥中章人のブログ <http://world-akihito-residence.blogspot.com/>

宮田篤のおちゃ感日誌 <http://ochakann.exblog.jp/>

コジマラジオのブログ <http://yapiog.jp/kojimaradio/>

FMゆめ団地の中島佑太のブログ <http://houseof.exblog.jp/>

オニワラボの台宿ポットブログ [http://blog.livedoor.jp/ds\\_pot/](http://blog.livedoor.jp/ds_pot/)

山中カメラのブログ『カメラの若大将』[http://blog.livedoor.jp/y\\_camera/](http://blog.livedoor.jp/y_camera/)

鈴木勲のブログ <http://suzukiisao.blog70.fc2.com/>

10月25日(土) PM1～5 茨城県取手市 取手井野団地 雨天決行  
はじめる自給!! 種まき大作戦  
生意気とつくる★フードジャングル ワークショップ

■定員：20名 定員になり次第〆切ます。

■参加費：無料

〈申し込み・詳細〉

種まき大作戦 フードジャングル・プロジェクト 担当 湊(みなと)

seed@tanemaki2007.jp Tel.090-4328-2408 <http://www.tanemaki2007.jp/index.top.html>

# 会期中のみどころ

## ①みかんぐみプロデュースのアート完備の団地

TAP2008 インフォメーションセンター

みかんぐみ+ICS カレッジ オブ アーツ団 《・・ラシサ》

みかんぐみと大学チームがTAP2008のインフォメーションを作ります。

レンタサイクルの受付、ガイドマップの入手はこちらへ。



《Cafe Tappino》イメージ

みかんぐみ《Cafe Tappino》10時～20時

かつて銀行の出張所として利用されていた一室を、みかんぐみがカフェにリノベーションします。住民とアーティストたちとTAPに集う人びとをつなぐコミュニティーカフェとして、再び活気ある場所になるための仕掛けです。

カフェはスタッフや団地住民が共同で運営し、日替わりスープや飲み物を用意しています。各イベントがおこなわれ、TAPグッズの販売、スタッフお勧めの取手のおいしいものを販売する「うまとり」もあります。

みかんぐみ+神奈川大学曾我部研究室《+ト(タスト)》

みかんぐみ+東北芸術工科大学竹内研究室《いのとしょ》

みかんぐみメンバーの大学チームが参加し、団地全体をまとめるべく、いろいろな団地の補助的要素を作品にします。団地特有の部位を活用したり、場所の生かし方を考えたり。サインや休憩スペースとして活用されます。

## ②日替わりでおこなわれる各イベント

1日[土]18:00～「Café Tappino オープニング企画 団地トーク」

団地に縁の作家たちがよってたかって団地を語り尽くします。

出演=FMゆめ団地、齋藤芽生、曾我部昌史(みかんぐみ)、DiYメディアセンター

2日[日]18:00～「TAP/SAP レポート」

似ているようでやっぱり違う?お隣韓国とおこなった交流事業を報告します。SAPからの招聘アーティスト、TAP選出の派遣アーティストの報告の他、SAPのクオン氏がプレゼンもします。

3日[月・祝]時間・タイトル未定

SAP作家のデイリーが映像と音楽を使ったパフォーマンスを有志の人とおこないます。

8日[土]18:00～「団地祭～夕暮れのカメラ～」

山中カメラがお送りする現代音頭とパフォーマンスの夕べ。団地に秋祭りが出現します。

9日[日]16:30～「思い出 Utd. 2069」

DiYメディアセンターによる井野団地の過去と未来をつなぐ映像イベント。

15日[土]14:00～「世界の団地から 韓国編」

DiYメディアセンターによる韓国の団地事情のリサーチ報告会。

ゲスト=大山頭(住宅都市整備公団・総裁)

18:00～「団地祭～プラス音頭の夕べ～」

山中カメラによる秋祭りの最後の夜は、取手井野団地の音頭でしめくくる。

18:00～「祝 TAP10年 同窓会」

あの人にもう一度会える!一見さんも常連さんも熱烈歓迎同窓会!

16日[日]18:00～「クロージングパーティー」

最後の夜にはみんなで過ごすささやかな宴を催します。



2008年、井野団地祭りの様子(山中カメラ)

## ③国民文化祭で取手市中がアートタウン

1日[土]～9日[日]は第23回国民文化祭・いばらき2008開催中。

取手の美術あゆみ展が東京芸術大学大学美術館取手館にて開催。取手駅西口ではアート屋台が開かれます。

同じ井野団地敷地内では昨年12月にオープンした井野アーティストヴィレッジにアトリエを構えるアーティストがオープンスタジオを開催。その他にも芸大生による企画もおこなわれます。

第23回国民文化祭・いばらき2008 <http://www.kokubun2008.pref.ibaraki.jp/>

## ゲスト・アーティスト作品介绍

齋藤芽生 《異野団地表彰状》《異野団地遺失物係》

名も無き市民が住んでいたと想定して部屋をつくる。ありふれた生活用具を意匠化し「賞状」の縁取りに見立て賞状を作成し、展示。日常の中で称賛されることのない些細な事柄やごく個人的なこころの宝に対し賞状を贈る。また、誰も探し当てそうもないが、自身にとっては非常に気になる探し物の貼紙を作成し、掲示板、踊り場などに掲示する。それを目にした心当たりのある人は、展示会場の部屋へ誘われる。テーマは永遠の喪失感。



生意気 《kinkymuffland4》

日本一破天荒なユニット生意気は、ポケットに忍ばせた種をあちこちに撒きながら歩きます。明日天変地異がおこっても、食べ物があれば何とかなるかもしれない。そんな二人が考えた最高に愉快でちょっとまぬけな、食べられるジャングル。毎日の大変な世話抜きで、植物が自分で全部やってくれるシステムを真剣に考え、適当につくります。賢く強い食べられる植物を沢山植えて、訪れたみんなで手を加えながら楽しく生き抜く術がここに。



Port B 《団地大図鑑》

同じ場所に一団となって住む。人間に備わったこの特徴は古今東西変わらぬものらしく、何かを一緒に作るため、効率や利便の追求の結果、あるいは一人で居られぬ寂しさのせい、理由はいろいろあるのですが集団を形成するというこの特徴が、世界にさまざまな「人間模様」をつくっていったことは確かに思えます。ではこうした「模様」を形にしたらどうなるか…。井野団地の一室にその模様が展示されます。



## 公募選出アーティスト作品介绍

13組のアーティストがそれぞれの視点で取手井野団地を切り取り、団地の室内、建物、外壁、公園などさまざまな場所で作品を展示します。

奥健祐＋鈴木雄介 《井野団地足湯プロジェクト》

団地の公園の横にある小さなプールは、夏以外は閉鎖され誰もいない。そのプールを足湯に変身させることで、ひと時の間「季節はずれのプールに人が集まる風景」をつくる。無料で利用できる足湯が団地の新しい憩いの場となる。



奥中章人 《world-danchi》

一本の針金を巨大な球体に編み上げることで、遠近感を消失する不思議な空間をつくる。細い網の重なりによってできあがる不確かな視界が、壮大なダイナミズムの存在を予感させる。球体は会期中、作家によって団地内を転がり、人や風景との交りを築いていく。



オニワラボ × グリーン情報 《coronet》、《PANGAEA》、《mother》

植物を使った3つの作品を設置することで、取手井野団地にすでにある良さを見つけ出すためのきっかけとする。当たり前すぎて通り過ぎていた、そこにある愛を見つけ出すための家具たち。



カトウチカ 《Dreamer》《Passenger》《Recorder》《Invisible flood》

団地の中に、記録者と通過者、そして夢を見る者が住む3つの部屋をつくる。部屋を訪れると、その気配だけが残り、部屋や外にはとほところに残された、見えない洪水の痕跡がある。すでに世界が架空の洪水で覆われていたことを表す。



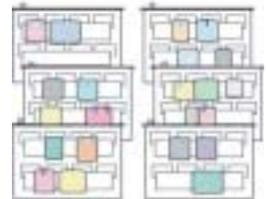
## 毛原大樹 × 中島佑太《井戸端ラジオプロジェクト FM ゆめ団地》

地域住民などさまざまな人たちのコミュニケーションの場となる「しゃべる井戸」をつくる。そこは聴くラジオではなく、観に来てしゃべるラジオ放送局。誰もが集まって自由に表現できる場であり、訪れた人の井戸端会議がそのままラジオになる。



## 佐藤未来《FUTON project》

見慣れた景観に変化を起こすことで、団地全体をジャックするプロジェクト。レジデンス期間を通して、使っている人の匂いやぬくもりが染みついている布団を、全棟の住民とコミュニケーションをはかりながら、一斉にベランダに干してもらうことを目指す。



## 柴田祐輔《ヘイ！カモン間接照明》

団地はかつて、漠然とした豊かさとおしゃれの象徴であった。その一室を可能な限り間接照明で演出する。システムキッチン、炊飯器、脱ぎ捨てられた衣服など、室内のありとあらゆるものを間接照明にしてしまうことで、その演出は意味を失う。豊かさの輪郭が浮かびあがる。



## DiY メディアセンター《団地 Utd. (だんちユナイテッド)》

取手から世界へ。世界の団地から未来の団地へ。カフェに設置されたステーションでは取手井野団地のアーカイブを展示し、インターネットで世界の集合住宅を結ぶ。現場密着型のメディア活動体として情報収集発信を通じてコミュニケーションとネットワークを創出する。



## 日本大学佐藤慎也研究室《+1人/日》

団地の一室に、1人が入居する。次の日に2人目が来て、一緒に暮らし始める。1日ごとに1人ずつ居住者が増えていき、最後には21人の共同生活となる。次第に狭くなる空間のなかで、1人分の生活スペースをどう確保してゆくか。工夫と創作の過程を公開する。



## 畑山理沙《隣の山田さん》

野外ビデオ・インスタレーション。団地の住民へのアンケートやインタビューを基にして作成される短編パフォーマンス・ビデオ3編から構成される。このプロジェクトを通して、現代の家族像や団地生活の実情などを見つめる。



## 宮田篤《おちゃ感 (TIME AFTER TIME TEA TIME AFTERNOON)》

百日オセロ、ちらし彫刻、微分帖、おとしりとり、きらきらつり。身近なものとユニークな視点で生み出された遊びを通して、団地の人びととのコラボレーションを模索する。遊んでできたものは団地の一室に展示され、お茶を飲みながらいつでも気軽に美術で遊べる部屋を開室する。



## 柳川瀬祐子＋工藤千尋《彼女はあの日、メリーゴーランドに乗りたかった》

ある女の子が住んでいた部屋。そこには女の子が幼い頃から大切にしてきた古ぼけた人形、食べかけのケーキと飲みさしのジュース、甘ったるいような、乳くさいような匂い、声。そういったものが散らばり、団地の一室に置き去りにされた、どこか懐かしい空間をつくる。



## 吉永ジェンダー《吉永ジェンダー取手ジャンププロジェクト》

いつもの団地の風景の中で、高々とジャンプした男の不思議な写真。吉永ジェンダーって誰？何者？10月から団地のあちこちに出現していたポスターの謎と既視感、「ジャンプ」を凝縮したインスタレーション、「吉永ジェンダーランド」で明らかになる。



## 国際交流プログラム

第23回国文化祭・いばらき2008の国際交流事業として、韓国・安養市にあるギャラリスペース「Stone&Water」が主催する『Seoksu Art Project (SAP)』とTAPが交互にアーティストを派遣し、日韓のアートプロジェクトの交流をおこなうプログラム。TAPからは過去のTAP参加作家3名を選出。8月に韓国へ派遣し、SAPで1ヶ月間の滞在制作、作品発表をおこなった後、日本に帰国して10月の1ヶ月間、取手井野団地でも滞在制作をおこないます。

SAPからは、アーティスト3人が10月に来日し、他のTAP2008の参加作家たちと共に取手井野団地で1ヶ月間の滞在制作をおこないます。

SAP ブログ <http://saptap.egloos.com/897433>



### 金沢寿美 《1111さん》

実在の人物ではない「1111さん」の暮らす空間をインスタレーションによって構築する。番号という無機質な記号で構成された住空間でありながら、家の匂いや部屋の雰囲気から彼、彼女の人生を感じさせ想像力を拒絶することのない空間をつくる。



### 鈴木勲 《廃食油カー、団地巡礼の旅（取手—安養—取手）》

井野団地と旅の道中に集めた廃食油でバイオ燃料をつくり、廃食油カー（フォルクスワーゲンゴルフ3）に給油しながら、取手市と韓国・安養市を往復する。行程約3,000kmにおよぶ団地巡礼の旅のライブドキュメントを写真と映像で展示する。



### 山中カメラ 《BonDance/TORIDE-SEOKSU-INO》

「㊦の音頭」をはじめ韓国で制作した「BonDance / SEOKSU-SUWOLLAE (석수수월래)」、新たに井野で作曲された「BonDance / BRASS-ONDO」、独自のパフォーマンスなど盛りだくさんの秋祭りを開催。



### カン・ウヨン 《unspoken words》

「unspoken words」とは、届くことのできなかつた言葉・行くあてのない言葉。誰もが心の中に持っていて時間がたつにつれ薄れたり存在意味がかわったりする。「unspoken words」と時間の関係性を持って「忘却」を語る映像作品を夜の団地に上映する。



### キム・ウォルシク 《珠玉のおもてなし》

毎日取手の住民に出会い、住民から頼まれたことを「お手伝い」する。会期中は「お手伝い」のお礼として生じる有形・無形のすべての謝礼を用いながらドキュメントを展示。お手伝いされた人による即興パフォーマンスを企画する。



### デイリー 《The Stage 'INO'》

団地住民からいらなくなった木製の家具を集め、それを使ってステージをつくる。そのステージは、各々が自由にパフォーマンスのできる場所となり、人びとの交流や休憩の場となる。さらに自身が作曲した曲を住民や近隣の学校などのアマチュアバンドが演奏する。



## こどもプログラム

### 児童作品展—800人のいちねんせい「あー、いいにおい」

取手市内の全小学1年生約800人が、身近にあふれるにおいや好きなにおいを画用紙に描きだしました。希望のあった7校では9月から10月にかけておこなったアーティストの派遣授業をおこない、そのとき制作した作品が展示されています。全ての作品を優劣をつけずに一堂に展示します。作品をつくったこどもにあててお手紙を書く「おともだちのさくひんにおてがみをかこう！」も是非ご参加ください。

会場＝キンビール取手工場ゲストホール

「取手駅」西口関東鉄道バス2番乗り場から「協同病院行き」で約5分。

会期＝11月1日[土]～16日[日] 10:00-17:00

平日もオープン ※3日[月・祝]・10日[月]を除く



## 参加アーティストプロフィール

### みかんぐみ MIKANGUMI (建築家ユニット)

加茂紀和子、曾我部昌史、竹内昌義、マニユエル・タルディッツによる建築設計事務所。1995年NHK長野放送会館の設計を機に共同設立。戸建住宅から、保育園、グループホームやライブハウスなどの建築設計を中心に、家具、プロダクトやアートプロジェクトまで幅広くデザインを手がけている。主な作品は、八代の保育園、05年愛・地球博トヨタグループ館、上原の家など。現在、長野県伊那東小学校改築計画が進行中。

### 齋藤芽生 Meo Saito (画家)

1973年東京生まれ。東京芸術大学大学院後期博士課程油画専攻修了。現在、東京芸術大学油画科講師。幼い頃公園住宅に住んでいた記憶を元に、団地の窓の空隙に孤独な人生模様を見出す絵画「晒野団地シリーズ」を制作。ありふれた日本の生活空間が祝祭性や幻想と奇妙に組み合わせられる。絵のほかに短文を用いた作品もあり、オムニバス形式の小説のように一片一片が独立しながらも大きな一つの物語を構築するようにつくられている。

### 生意気 Namaiki (クリエイティヴユニット)

ニュージーランド生まれのディヴィッド・デュバル・スミスとイギリス生まれのマイケル・フランクによるクリエイティヴユニット。グラフィックを中心にハードなゴスペルミュージックや大工仕事、ガーデニングなど、持ち前の遊び心で幅広く活動している。05年から空き地緑化 graffiti プロジェクト(食べれる植物の種まき)を始め、今は鎌倉でフードジャングルを作っている。08年「土と平和の祭典」(東京)参加。

### Port B Port B (演劇ユニット)

2002年東京にて結成。高山明がドイツで培った演出メソッドを出発点としながらも、舞台作品だけでなく“ツアー・パフォーマンス”の企画やインスタレーションの制作など、「演劇」という枠組みにとらわれない活動を展開する。近年の主な公演に、E. イェリネク「雲。家。」、はとバスを使った「東京／オリンピック」、池袋サンシャイン60の周囲を巡る「サンシャイン62」、「演劇的インスタレーション」 「荒地」などがある。

### 奥健祐+鈴木雄介 Kenyu Oku+Yusuke Suzuki (クリエイティヴユニット)

TAP2008参加のため結成したユニット。共にSurvival in Tokyo lab.の一員として制作活動。主なプロジェクトに「Lodging Tokyo」など。08年「川俣正 [通路] 展」(東京都現代美術館)参加。

### 奥中章人 Akihito Okunaka (芸術家)

1981年京都生まれ。静岡大学教育学部卒業。01年から東海圏のオルタナティブスペースで巨大なサイトプロジェクトをおこなう。07年リトアニアでの国際展参加を皮切りに海外での活動計画などを活発に進行中。

### オニワラボ × グリーン情報 oniwalabo × green-joho (お庭研究会 × 花と緑の専門情報誌)

東京芸大(先端)在学生を中心とした7名で結成。「庭」に関連ある事柄についての自主研究会。取手市を拠点に活動。花と緑の専門情報誌として30年にわたり園芸・花卉産業を取りあげてきた「月刊グリーン情報」が企画協力。

### カトウチカ Chika Kato (アーティスト)

東京都在住。東京芸大(油画)卒業。映像や写真、ドローイングなどさまざまなメディアを使用したインスタレーションを展開。08年「Between」(個展/Azabu Art Salon Tokyo)など。

### 毛原大樹 × 中島佑太 Hiroki Kehara × Yuta Nakajima (アーティスト)

毛原大樹、中島佑太によるユニット。05年「FMヨコトリ」(横浜トリエンナーレ2005)をきっかけに自由ラジオをおこなう。07年-08年「コジマラジオ」、ラジオとワークショップの連動企画番組「中島☆記念日」など。

### 佐藤未来 Miku Sato (美術家)

1985年神奈川県生まれ。武蔵野美術大学在籍。日々の生活や海外旅行時に感じる日本文化や社会の矛盾、愛国心などをもとに、さまざまな素材、メディアの作品を制作。08年「トーキョーワンダーウォール」入選。

### 柴田祐輔 Yusuke Shibata (美術作家)

1980年福岡生まれ。武蔵野美術大学大学院美術専攻版画コース修了。イメージが作り出す現実との違和感に注目し、版画、映像、写真、インスタレーション、パフォーマンスなどさまざまな表現手段で作品を制作している。

### DiYメディアセンター DiY Media Center (メディアアクティヴユニット)

TAP2008参加にあたり楠見清、久木元拓、山口祥平、大岡寛典により結成。編集、文化政策、ドキュメンテーション、グラフィックデザインなどの手法を融合し、芸術と社会のシステム形成を目指すメディアアクティヴユニット。

日本大学佐藤慎也研究室 Shinya Satoh Studio, NihonUniversity (建築家)

佐藤慎也(日本大学理工学部建築学科助教)を中心とした研究室。07年「蔵メール」(富山)。08年「U41@NU 40歳以下の日大出身建築家展」(日本大学理工学部CSTギャラリー)の企画、制作、展示構成デザインを担当。

畑山理沙 Risa Hatayam (メディアアーティスト)

岩手県生まれ。カナダ在住。コンコルディア大学写真科卒業。存在主義やシュルレアリズム文学に強く影響を受ける一方で、写真やビデオなどをベースとした独自の多感覚型のインスタレーションを中心に制作を続けている。

宮田篤 Atsushi Miyata (アーティスト)

1984年愛知県生まれ。08年片岡球子奨学基金でオランダ短期滞在。07年「はくぶつ感」(U8projects/愛知)、「びじゅつ感」(名古屋美術館)、08年「としょ感」(エビスアートラボ/愛知)、「しょうがく感」(ARCUS/茨城)。

柳川瀬祐子+工藤千尋 Yuko Yanagawase+Chihiro Kudo (おと と ものこことば ユニット)

柳川瀬祐子と工藤千尋によるユニット。柳川瀬祐子1981年兵庫県生まれ。日常にある音や機械を壊した音、人の声などを楽器と織り交ぜた楽曲制作をおこなう。工藤千尋1981年秋田県生まれ。物と言葉による物語を作り続ける。

吉永ジェンダー Yoshinaga Gender (己美術家)

1978年生まれ。主に己をテーマとした写真作品や、過度に装飾的な彫刻作品を制作。バカバカしさやロココティックな華々しさを好み、みための面白さを追求する。07年「SA・KURA・JIMAプロジェクト2007」参加。

金沢寿美 Kim Soomi (美術家)

1979年兵庫県生まれ。在日韓国人3世として生まれる。京都精華大学大学院芸術研究科修了。98年スペイン、06年韓国へ留学。人間社会における集団性の問題をテーマに制作。02年「Redline」(TAP2002/茨城)

鈴木勲 Isao Suzuki (旅人)

1969年東京生まれ。多摩美術大学美術学部卒業。01年ソーラー・サイクルリクシャーによる北インド8大聖地巡礼など、地球規模でエコロジカルな旅を実現。07年「eco japan cup 2007」エコアート・グランプリを受賞。

山中カメラ Yamanaka Camera (特殊写真家・現代音頭作曲家)

1978年山口県生まれ。04年「GEISAI-6」にて銀賞受賞。とうじ魔とうじ主宰「フロント」所属。自作の写真、映像、歌が融合した独特の「カメラショー」をライブ形式で展開。07年「Wあつしの大運動会」(BankART)

カン・ウヨン Woo-Young Kang (アーティスト)

韓国生まれ。東京芸術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻博士過程在籍。主にディスコミュニケーションをテーマとして「unspoken words」というタイトルでサイトスペシフィックなインスタレーションやパフォーマンスを発表している。

キム・ウォルシク Wolsik Kim (アーティスト)

1963年ソウル生まれ。韓国・安養在住。都市の中心と周辺部の開発と成長の関係に興味を持ち、作品化している。アイデンティティーに影響を与えた近代から現代、ローカルとグローバルの問題について独自のスタイルを展開。

デイリー daily (アーティスト)

1966年生まれ。ソウル在住。ソウル大学卒業、デュッセルドルフ芸術アカデミー修了(ヤニス・クネリス教室)。01年からヨーロッパと韓国を中心にアートプロジェクトを企画、実践している。